



No. 147

ティーブレイク

Tea Break

魂の続きの中で

会員 正林 真之

5期目の副会長時代の元・同僚副会長の有難い誘いにより、長岡の花火大会を見に行く機会に恵まれた。その日は晴天。それでありながら微風がある。この微風というのは、観覧人に対して涼しいだけでなく、花火から煙を除いてくれる。まさに花火日和である。

長岡の駅に着いた頃には灼熱の中にあっただが、日暮れとともに涼しくなってくる。夕日が落ちかけ、月が昇ってくるまさにその瞬間に、花火大会は始まる。各花火は、地方のそのの典型で、まずはスポンサーの名前と思いが述べられて、「打ち上げ開始でございます」の合図とともに、尾を引いた火の玉が昇っていき、空に大輪が描かれる。

日本最大の三尺玉。直径が90cmのこの玉は、全体で600kgもあるらしい。これが空に上って炸裂する。

ナイアガラも見事で、日本最長の信濃川にかかる橋に仕掛けられ、そこからいくつもの火の糸が落ちていく。

そうした花火大会の中でも、スポンサーから込められた思いの中に「地球上の全ての爆薬が全部花火に変わったのなら、地球は平和になるでしょう」というのがあった。打ち上げ会場には、黒色火薬に含まれている硝煙の臭いが立ち込めている。そう、この黒色火薬というのは、昔も今も、花火にだけではなく、代表的な爆薬として現に使われているのだ。なので、花火の爆発音というのは、基本的には爆弾のそれと同じなのである。

爆発音と同じだからだと思えるが、戦地にも行き、本土決戦にも参加した伯父は、花火が嫌いだと言っていた。曰く、あの忌々しい空襲を、焼夷弾を、対空砲火を、

思い出させるのだそうである。

ただ、空襲を受けたのは、我が故郷だけではない。実は、この長岡も受けたのだ。けれども長岡は、その思い出が覚めやらないかなり早い段階で、花火を復興している。

そしてまた、戦争経験者もこれを観覧しているはずであるから、一言に観覧人と言っても、実はその思いは様々なのではないかとも思える。現に、尾を引く玉が空に上る様子は、対空砲火にも、見ようによっては人魂のようにも見える。同様のことは、東日本大震災の被災者の方々にも言えそうである。

そうした色々な思いを受けながらも、花火のプログラムは進んでいく。普通の花火大会であれば目玉となるスターメインも、この長岡では小さいもののようにさえ思える。スターメインを越えたワイドスターメイン、そしてなんとも見事な尺玉百連発。日本一の信濃川沿いの広い会場は、この川と同じくらいに長い感動に包まれる。

そして、フィナーレのフェニックス。河川敷と空一面が、花火に包まれる。この筆舌に尽くしがたい情景を何と形容してよいのか。ただ言えることは、この瞬間に、様々な思いの会場の人々の心が一つになったのではないかということである。この感動の瞬間に、まだ小学生の娘が、感無量で泣いていた。この娘の「来年もまた連れてきて欲しい」という言葉に嘘や世辞はなからう。

けれども、花火に限らず、こういったイベント事というのは、実は継続がとても難しいものである。本当は、この長岡とて例外ではないであろう。もうやめようという声が出たのも、一度や二度ではないはずである。

けれどもその一方で、黒色火薬に吹っ飛ばされる子供もまだ世界には存在するのである。そして、それは終わる気配が無い。そうしたことを思えばこそ、この娘が親となって自分の子連れてくる時期となっても、この長岡の花火大会が続いて欲しいと思う。少なくともこの国においては、花火の火薬が爆薬に転用されることな

ど無く、今のこの平和がずっと続いて欲しいと思う。

もちろんそれが一種の勝手な望みであることは分かっているが、花火の余韻の残るこの静けさの中で漸くはしゃぎまわり始めたあの無邪気さを見れば、そう思うことくらいは許されるのではないかと、しみじみと、そう思ったのである。

「弁理士Info」 「ヒット商品を支えた知的財産権」 のご案内

JPAA
Information

知的財産権制度と弁理士の業務について、イラストや図を使ってわかりやすく解説したパンフレット

「弁理士Info」及び季刊誌「特許・アトニー」のヒット商品を支えた知的財産権と題して連載してきた内容を1冊にまとめた「ヒット商品はこうして生まれた! (平成23年11月改訂版発行)」等のパンフレットがあります。

一般の方には原則として無料で差し上げております。(送料は当会で負担します)

ご希望の方は、下記ご連絡先までお問い合わせください。

◆連絡先 広報・支援・評価室◆

ご希望のパンフレット名と部数、ご送付先、お電話番号を明記の上、下記までお申込みください。

FAX:03-3519-2706
mail:panf@jpaa.or.jp



▶「弁理士Info」



▶「ヒット商品はこうして生まれた!」